

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)八幡美濃山花き物流冷蔵施設新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.1
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1		開口部遮音性能								
2		界壁遮音性能								
3		界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4		界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1		室温								
2		外皮性能								
3		ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1		昼光率								
2		方位別開口								
3		昼光利用設備								
3.2 グレア対策										
1		昼光制御								
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1		化学汚染物質								
4.2 換気										
1		換気量								
2		自然換気性能								
3		取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理										
1		CO ₂ の監視								
2		喫煙の制御								
Q2 サービス性能							0.43			3.5
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1		広さ・収納性								
2		高度情報通信設備対応								
3		バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性										
1		広さ感・景観								
2		リフレッシュスペース								
3		内装計画								
1.3 維持管理										
1		維持管理に配慮した設計								
2		維持管理用機能の確保								
2 耐用性・信頼性						3.3	0.50			3.3
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50			
1		耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80			
2		免震・制震・制振性能				3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数						4.0	0.30			
1		躯体材料の耐用年数				3.0	0.20			
2		外壁仕上げ材の補修必要間隔		角波銅板葺: 35年		5.0	0.20			
3		主要内装仕上げ材の更新必要間隔		倉庫:(床)コンクリートの上浸透性表面硬化剤、(壁)断熱パネル、(天井)直天		5.0	0.10			
4		空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10			
5		空調・給排水配管の更新必要間隔		給水:硬質塩ビ・ライン管(B)、排水:塩化ビニル管(B)、冷媒:銅管(C) E不使用		5.0	0.20			
6		主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20			
2.4 信頼性						3.2	0.20			
1		空調・換気設備				3.0	0.20			
2		給排水・衛生設備				3.0	0.20			
3		電気設備				3.0	0.20			
4		機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5		通信・情報設備		精密機械の地下空間への設置はない		4.0	0.20			

3 対応性・更新性			3.6	0.50		-	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30		-	
1	階高のゆとり	階高:3.9m以上	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率<0.1	5.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性			3.2	0.40		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性	防火区画は適切に貫通処理がなされているため、構造材を痛めずに更新・修繕が可能である	5.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57		-	2.8
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30		-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30		-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40		-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			1.0	0.20		-	1.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.62	4.8	0.50		-	4.8
4 効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00		-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価						-	
4.1	モニタリング					-	
4.2	運用管理体制					-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	3.3
1 水資源保護			3.4	0.20		-	3.4
1.1	節水	節水型水栓に加え、節水型便器を用いている	4.0	0.40		-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60		-	3.5
2.1	材料使用量の削減	SN490Cを採用している	4.0	0.10		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20		-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+LGS+せっこうボード+仕上材の詳細、OA70A採用	5.0	0.20		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20		-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50		-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	3.3
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出量82%	3.7	0.33		-	3.7
2 地域環境への配慮			3.1	0.33		-	3.1
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25		-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	適切な量の駐車場を設置して交通負荷抑制に努めた	5.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33		-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制					-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインのチェックリストの過半を満たす	5.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	